

[回答 3]

機械化によって雇用はどうなっていくのでしょうか？

私は、ホワイトカラーといった中間層がいなくなり、富裕層と貧困層に格差が別れていくと考えています。先生はどうお考えですか？

[回答 36]

人である限り、人にしかできないことをしなければならないと感じました。となると、想像力やクリエイティビティを極める、些細なことでもコツコツと磨き上げて行きたいと感じました。

[講師リプライ]

完全な A I ができるとすれば、「人間にしかできない」という分野はなくなります。しかし、それでもなお、コストをかけてまで A I がやるべきものとは認識されない分野は存在します。また、人間というある意味で不完全な、個体による差異が多岐に渡る存在それぞれに一对一で適合させるシステムは煩雑であり、また論理を超えた「飛躍」が必要な場合もあって、それが「完全な」A I の「正常な」能力で対応することをおかえて非効率なものにするような分野も出てきます。

そのような分野に、生きていく道を求めるということは「マニュアル」に依存する生計手段とは対極にある行動です。筋肉タイプのサービス業は、この典型であり、各個体の要求に的確に答えられる者のみが行いうる分野かもしれません。広義の「おもてなし」も、顧客側の要求が常に変異していく蓋然性の高い状況の下において、如何に「先取り」も含めて顧客の満足度を個々に最大化していくかという作業であり、人間に残された分野の一つでしょう。

そういう状況の下では、製造に携わるブルーカラー、紙面上の文字・数字（あるいはデジタル表象）を扱うホワイトカラーに加えて、A I が優越する分野に従事するクロームワーカー、さらに能動的に農業に取り組むグリーンワーカーといった様々な職務分掌が出てきます。しかし、その分掌分けと「富裕層、貧困層」という分類とは全く違うものであり、全ての分掌において、貧富の分散は生じてきます。アーティストとまでは呼ばれないブルーワーカーがその製品の希少性、独自性から高い収入を得ることも十分にあります。職務分掌と所得階層のグループ分けが一致しない例が増えてくるということでしょう。